

ひびき

教育目標：「なかよく かしく たくましく」
3本柱：さわやか挨拶 聞き方・話し方名人 いきいき運動

多治見市立共栄小学校 H29. 10. 31

後期が始まりました

校長 楯 明夫

後期が始まりました。前期の成果として、授業や集会に臨む姿から、これから何をするのかという「かまえ」を大切にしていることがよく伝わってきます。また、授業でのグループ学習や宿泊研修、運動会等の行事で、仲間が確実にできています。生活アンケートでは、81%の子が「学校生活は楽しい」、93%の子が、「みんなで何かをするのが楽しい」と感じてくれています。それぞれの子どもたちが学校生活の中で仲間を大切にしてくれている現れだと思っています。先日後期委員会の委員長さんの任命式を行いました。どの子もやる気に満ち、共栄小学校をより良い学校にしたいという意欲が感じられ頼もしく感じると共に仲間と一緒に生活することの安心感が育ってきたと思います。逆にしてみると、まだ7%の子が安心していないのかもしれませんが。また19%の子がどちらかという学校生活の楽しさを感じていないことも事実です。

そこで学校生活の楽しさについて考えてみました。当たり前ですが、学校生活の中心は授業で学習することです。得意な教科は楽しいでしょうし、苦手な教科はあまり楽しいものではありません。それは、大人も同じように思いながら学校生活を送ってきたので共感できると思います。しかし例えば苦手でも「頑張ったらできた」という経験は、大きな喜びにつながります。きっと、あきらめずに「できるようになること」や「わかるようになること」が学習する醍醐味なのだと考えます。そのきっかけとなるものは何なのでしょう。考えられることをあげてみます。

① 教師

やはり、私たち教師が「わかる授業」をするために、日々授業力を向上させるための努力をすることは、最も大切なのだと自覚します。これが最大の仕事です。

② 仲間（友達）

仲間と共に学び、仲間に習ったり教えたりすることで、わかったりできたりする経験ができることが学校という所の素晴らしさだと信じています。だからこそ授業だけでなく仲間とより良い関係を築く方法を考えることも教師の重要な仕事です。

③ 家族

できるようにすることやわかるようにすることが学校の大きな役割とすれば、家族は大切な応援団でありたいです。あきらめない心を育てるためには、やはり家族の力が必要です。可能性を一番知っている身近な人だからです。

④ 手本となる大人の姿

偉人と言われる人、一流のプロ選手や有名人、政治家、働く人々、地域の人、親戚の人、先生、祖父母、兄弟、親、など、その人たちの生き方を知ること、それに触れることは、やはり大切な気がします。本や新聞で、あるいはテレビやインターネットで、素晴らしい大人から、生き方を学ぶこともあれば、身近な人たちとの会話から生き方を感じ学ぶこともあります。逆に考えたら、つい好ましくない生き方をしている子がいるとするならば、大人がどこかで教えて生まれたものだと思うのです。

まだまだ、あると思いますが、大切な共栄小学校の子どもたちに「できる」「わかる」喜びをたくさん味わわせていきたい、そんな後期にするために努力していきたいと思っています。引き続きご協力よろしくをお願いします。